

**関西第1回 枝川博士の日本建築講座**  
**「日本建築の特質そして創造性の根底にあるもの」**  
2017年8月12日(土)実施 JGA 第三支部研修 終了レポート

8月12日(土)は、夏休み、盆休暇中とあって、いつもながらの訪日外国人の他、日本人観光客や、帰省客、参拝客で賑わう京都で、枝川裕一郎正会員(博士(工)・一級建築士・英語通訳案内士)を講師に迎え、日本建築をテーマに、日本人の創造性の特質、日本建築の構成(コンポジション)―第1部「日本建築の特質」、第2部「日本建築の創造性の根底にあるもの」についての研修が開催されました。ご講義の中で、例として取り上げられた関西エリアに関係する主なものは次の通りです。

- ★日本人の素材にこだわり、素材を大切に、物造りの姿勢、主に木材をはじめとする自然の素材の持ち味を最大限に活かした、しっとりとした簡素な趣が時代を超えて息づいている―**祇園白川地区**
- ★自然素材の美、機能美―**桂離宮**
- ★木組みのような合理的な構造技術と木工の匠の技、部材をくみ上げる技術の粋―**醍醐寺五重塔**
- ★常時は控えめなおとなしいものを目指す、ひとたびエネルギーが結集され特別なものを目指す時、きらびやかで、人工的なものへと傾倒する可能性を秘めている―**平等院鳳凰堂**
- ★一点豪華主義的のバランス感覚、落ち着いた室内で、一点異彩を放つ金屏風を特別な場に用いる感覚―**鹿苑寺金閣**
- ★追求してもものづくりを極めた、吟味された素材の良さを実感、土壁に見えた中にも漂う尋常でない「高貴さ」、金をいかにも金であるように磨き上げない節度ある扱いに潜む日本人の美意識―**大阪城の黄金茶室**
- ★卓越した木の匠と匠の技、大修理を経ても何事もなかったかの如く―**薬師寺西塔、唐招提寺金堂**
- ★日本文化の特質を表現する概念のひとつとしてあげられる「真行草」日本人の外来文化の受容のあり方、異なる様式形態を統一的包括的に理解しようとする概念、各々の様式の存在を正当化し、様々な様式、形態の共存、並立を促す、否定の無い並立共存、「まねる・崩す・やっす」、違い棚や壁、襖絵に遊び心が強く反映―**修学院離宮中御茶屋客殿**
- ★非対称性、自然とともにあろうとする日本人の創造活動において自然を源泉とする自由な形態、要素の非対称的調和に力点、金堂を右、五重塔を左に回廊で囲った非対称系の伽藍配置―**法隆寺**
- ★建物と庭園等外部空間との関係、配置は自然発生的で、右近の橘、左近の桜(梅)、常緑樹と落葉樹を対にした非対称を志向、幾度となく試されてきた対称性の定着を排除しようとする力が働いてきた原点―**京都御所**
- ★「部分から全体へ」、「足し算の文化」古いものの横に新しいものを足して併存する、―**桂離宮古書院**
- ★雁行形状、機能の足し算、全体としての形態的な簡潔性が緩く、さらなる延伸が可能である一方で、必然的に非対称系である―**二条城**
- ★別棟(部分)を加えていくために不可欠の渡り廊下、建て増し文化の象徴―**仁和寺**
- ★正堂(奈良時代・寄棟造り)+礼堂(鎌倉時代・入母屋造)、500年も古いものに建て増しし一体化「部分が先行」しつつも、全体としてトータルベストを造り上げる日本人の特質―**東大寺三月堂**
- ★日本人の美意識「詫び(粗末あるいは簡素な様子が積極的に評価され、美意識の中に採りこまれたもの)・寂び(時間の経過とともに古びた様子に美を見出す意識、人がいなくて閑寂な様子に美を見出したもの)」、藁すさを壁の表面に出して塗り地元の竹を多用し、床柱には手斧の痕を見せる粗々しさ、自然の素材の風合と彩のみで構成したこの楚々とした空間は正に「詫び・寂び」の境地を今に伝える―**妙喜庵待庵**
- ★眼前のわずかなスペースに壮大な思い、岩は人間の欲情を表し、白砂の頂きはそれが純化する過程―**大徳寺大仙院石庭**
- ★シンプルでわずかな方形の広がりであるが、全宇宙を包括するもの、15個の石の点在、白砂、深い禅の思想、人間の不完全さ、遠近法―**龍安寺石庭** 等々です。

貴重な歴史的世界遺産の宝庫である関西(京都・奈良・大阪)を訪れる皆様に寺社仏閣、日本庭園等をご案内する際に知っておくべきポイントを網羅しつつ、自然との共生や「日本人らしい考え方、ものの見方」―Japanese Identities―「部分を積み重ねて全体に至る、すなわち部分が全体に先行する」とする特質など、「日本らしさとは何か」についての考察から通訳案内士にとって必須の知識を学ぶ機会となりました。(以上)